



家庭ごみの出し方のポイント ～ごみステーションに残されないために～

環境生活課には、毎日ごみの分別に関する問い合わせが多く寄せられます。特に転入された方は、市町村ごとのルールの違いに戸惑われることも多いようです。そこで今回は、「栗山町のごみ出しのポイント」をまとめました。「家庭ごみ・資源物の分け方・出し方（2024年4月版）」と照らし合わせながら、正しい分別へのご協力をお願いします。家庭から出るごみは、大まかに分類すると燃やせるごみか燃やせないごみの2種類です。

燃やせないごみとして出せるものは、冊子5ページに記載されているおおよそ20品目に限られています。粘土、漬物石、体温計、使用済みの花火などで、栗山町全体で年間に出る量は10トほどですが、これはごみ全体のわずか0.3%と非常に少ない割合です。残りはすべて燃やせるごみですが、年間約3100トのすべてをそのまま燃やすわけではありません。その中には、約1000トもの資源が含まれているからです。この資源を無駄にせず再利用するため、町では「青・赤・黒」の指定ごみ袋による資源回収を行い、分別の徹底をお願いしています。例えば燃やせるごみの指定袋（茶色）の中に、資源物が混ざっていると、収集されずにごみステーションに残されてしまうことがあります。では、どのように分ければよいのでしょうか。各指定袋のポイントをまとめました。

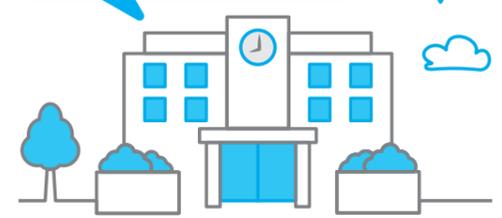
《ごみステーションに残されない各指定袋のポイント》

青の指定袋 プラスチック類
「プラマーク」があるものだけです。中身を使い切り、汚れを軽く落としてから入れてください。



栗山学び隊 / 介護福祉学校

Vol. 70



介護福祉学校と栗山高校を隔月で取材！
ふるさと栗山で歩む介護の仕事



熊谷 洋平さん（2年）

栗山町出身で現在介護福祉学校に通い、今月卒業を控えている熊谷さん。生まれ育った地元での就職が内定しており、地域の支えとなる介護の仕事に挑む思いを取材しました。

地元での介護の道を志す決意

町外の大学に通っていた熊谷さんは、「慣れ親しんだ栗山町で暮らしながら働きたい」という強い思いを抱いていました。介護福祉学校のことを知り、人と触れあう仕事したい気持ちもあり、進学を決意。大学を中退して地元に戻り、介護の道を目指しました。実習先では職員の一生懸命働く姿に触れ、「ここで働きたい」という思いがさらに強まったと言います。複数の施設での実習を通じて現場のリアルな雰囲気や利用者主体のケアの大切さを実感。理論だけでなく実践を経験することで、将来の仕事に対する希望がいつそう明確になりました。

また、学校での勉強を通じて、介護は単なるお世話ではなく、利用者一人ひとりの意思や希望を尊重するケアであることを理解。実習で出会った利用者の方々が自分の意見を大切にし、介護者と信頼関係を築く姿を見て、介護の本質を実感したと語っています。

実習と学校生活から得た学びと仲間への支え

「クラスは22人で、先生との距離も近い環境です。グループワークや話し合いを通じて、友人や教員と深く関わりながら学べるのが良かったです」と熊谷さんは話します。クラスメイトとは日々の勉強はもちろん、実習でもお互いに支え合い協力しながら取り組んできました。実習先では不安や分からないことも多かったものの、「仲間がそばにいて安心して経験が積み重なりました」と振り返ります。そのおかげで充実した学びができ、基礎をしっかりと身につけることができました。

地域とのつながりと将来の目標

また、熊谷さんは町の活性化のための集まりや手話サークル、サッカーチームに参加し、地域とのつながりを深めています。こうした交流を通じて、人との近さや温かさを感じながら、地域の中での役割やつながりを大切にしています。これらの経験を踏まえ、資格取得後は、地元根ざし地域福祉の担い手として貢献していく決意です。

つけることができたそうです。将来の目標については、「利用者の方に安心してもらえる介助をしたい」と語り、さらに「社会人として自己管理を徹底し、どんなに忙しくても一人ひとりの利用者さんに丁寧に接することを心掛けた」という強い志を持っています。

ないごみの2種類です。

燃やせないごみとして出せるものは、冊子5ページに記載されているおおよそ20品目に限られています。粘土、漬物石、体温計、使用済みの花火などで、栗山町全体で年間に出る量は10トほどですが、これはごみ全体のわずか0.3%と非常に少ない割合です。

残りはすべて燃やせるごみですが、年間約3100トのすべてをそのまま燃やすわけではありません。その中には、約1000トもの資源が含まれているからです。この資源を無駄にせず再利用するため、町では「青・赤・黒」の指定ごみ袋による資源回収を行い、分別の徹底をお願いしています。例えば燃やせるごみの指定袋（茶色）の中に、資源物が混ざっていると、収集されずにごみステーションに残されてしまうことがあります。では、どのように分ければよいのでしょうか。各指定袋のポイントをまとめました。

例えば燃やせるごみの指定袋（茶色）の中に、資源物が混ざっていると、収集されずにごみステーションに残されてしまうことがあります。では、どのように分ければよいのでしょうか。各指定袋のポイントをまとめました。

（詳細は冊子7ページ）。

現在、約90%は正しく分別されていますが、残りの10%で特に多いのが、プラマークのないハンガーやバケツなどの「硬いプラスチック」です。これらは「燃やせるごみ」ですので、茶色の指定袋で出しましょう（詳細は冊子8ページ）。また、飲むヨーグルトの容器などは、容器本体に「PET」マークがあるので、「ペットボトル」として分別されるものもあります。ときどきマークを確認してみてください。

赤の指定袋

缶・びん・ペットボトル
中身を使い切り、軽く水洗いをしてから袋に入れてください（詳細は9ページ）。

ペットボトルのキャップ・ラベルは「PET」なので、はがして青の指定袋へ入れましょう。

缶とペットボトルは、つぶして出したいだけ構いません。カセットボンベなどは、必ず中身を使い切ってから穴をあけて出してください。なお、中身が残っている場合や穴をあけるのが難しい場合は、環境生活課まで直接お持ち込みください。

黒の指定袋 資源物（鉄・金属類・雑紙）

鉄・金属類は、電子レンジなどの小型家電も袋に入るものは回収します。入らなければ粗大ごみになります。傘やフライパンなど柄の長いものは袋から多少飛び出しているも回収します。

包丁などは分別する作業員がケガをしないよう、刃先を新聞紙などに包み「キケン」と書いてください。

新聞やチラシ・雑誌・段ボールは、それぞれ分けて、ひもで十字にしばって出せます（冊子の11ページ）。汚れたものは燃やせるごみで出してください。

濡れるとリサイクルできないので、濡らさないよう出してください。

資源の有効活用にご協力ください。分別の相談は環境生活課までお気軽にお問い合わせください。